



～益川敏英教授プロフィール～

1940年、名古屋に生まれた益川敏英教授は、高校時代に、当時世界的な物理学者だった坂田昌一博士に憧れ、名古屋大学に進まれました。1967年に同大学院博士課程を修了し理学博士号を取得された後、1970年に京都大学に移り、理学部、基礎物理学研究所の教授、所長などを歴任。1973年に、当時同じく京都大学の助手であった小林誠博士とともに発表した「小林・益川理論」は、物質の存在の謎を解く画期的な理論として、世界中の注目を集めました。近年、大型加速器を使った観測によりその正しさが次々に実証され、2008年秋のノーベル物理学賞を受賞されました。現在は名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長、京都産業大学益川塾頭として活躍されております。

- 主な経歴：1967年3月 名古屋大学大学院理学研究科修了（理学博士）
1967年4月 名古屋大学理学部助手
1970年 京都大学理学部助手
1976年 東京大学原子核研究所助教授
1980年 京都大学基礎物理学研究所教授
1990年 京都大学理学部教授
1997年 京都大学基礎物理学研究所長（2003年3月まで）
2003年 京都大学名誉教授
2003年 京都産業大学理学部教授
2007年 名古屋大学特別招聘教授
2009年 名古屋大学特別教授
2009年 京都産業大学益川塾頭
2010年 名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長
2010年 日本学士院会員
- 受賞歴：1979年 仁科記念賞
1985年 日本学士院賞
1985年 アメリカ物理学会 J・J・サクライ賞
1994年 朝日賞
1995年 中日文化賞
2001年 文化功労者
2007年 欧州物理学会高エネルギー・素粒子物理学賞
2008年 ノーベル物理学賞
2008年 文化勲章